

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和2年度農作物病虫害発生予察情報について

令和2年度農作物病虫害発生予報及び月報を発表したので送付します。

令和2年度農作物病虫害発生予報第1号

令和2年5月1日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が36.4%と、平年(16.9%)に比べて高いが、25株当たりの本田生息虫数は0.6頭と、平年(0.8頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%、発病葉率が0.0%、発病果率が0.0%)。
- (2) 令和元年9月3半旬及び10月3半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。また、令和2年3月4半旬の芽基部の調査でも、発病を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.8%、芽基部発病率が0.2%)。
- (3) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し、防除に努める。

赤星病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が12.5%, 発病葉率が0.6%と, 平年(36.6%, 4.8%)に比べてやや低い。

(2) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では, 気温は高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 天気は数日の周期で変わり, 平年と同様に晴れる日が多いと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) ビヤクシン類からの病原菌(小生子)の飛散ピークは過ぎたと考えられるが, 5月上旬頃まで飛散する可能性があるため, 防除暦に準拠し, 防除に努める。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い

発生量 平年並(前年より少ない), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では, 5地点で越冬を確認, 越冬成虫は0.7頭/m²であり(10年間で6番目に高い), 平年(2.3頭/m²)並で, 前年(成虫確認地点数は9地点, 越冬成虫数は7.0頭/m²)に比べて低い越冬密度であった。

(2) 今春の予察灯調査においては, 勝浦町, 上板町いずれにおいても4月第5半旬まで誘殺を認めていない(平年(4月1半旬~4月5半旬)は勝浦町 8.7頭, 上板町 9.4頭)。

(3) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では, 気温は高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 天気は数日の周期で変わり, 平年と同様に晴れる日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ, キリ等)から成虫が飛来するので, 園内を巡回し, 飛来を認めたら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大きいので, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月第6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が10.9%, 発病株率が1.2%)。

(2) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では, 気温は高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 天気は数日の周期で変わり, 平年と同様に晴れる日が多いと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 肥料切れすると発生が多くなるので, 適切な肥培管理に努める。

(2) 発生前または発生極初期から, 定期的に薬剤を散布して予防する。

(3) 罹病葉を圃場に放置すると伝染源となるので, 速やかに圃場外で処分し, 病原菌密度の低下に努める。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 4月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が88.9%, 葉の被害度が4.9と, 平年(73.8%, 5.4)並

の発生である。

(2)高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、葉の被害度が0.2と、平年(82.1%、4.3)に比べて低い。
- (2)高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3)被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4)春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

- 1)薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2)水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

- 病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。